

ひと もの 空間

- 将来像『府民とともに未来へつむぐ豊かな「農」』を実現していくため、府民生活で農業・農空間が将来にわたって果たしていく役割に着目し、【しごと】【くらし】【地域】の3つをテーマとして、目指す方向性と10年後の姿を設定
- 旧おおさか農政アクションプランで『ひと』『もの』『空間』の3つの柱を対象に進めてきた施策を有機的に結びつけることで、より府民に分かりやすく、効果的な施策の推進を図る。
- 本プランは都市農業振興基本法（H27.4施行）に基づく府地方計画として位置づけ（平成29年8月策定 計画期間H29～R3）

1. 【しごと】農業でかっこよく働こう！

2. 【くらし】農でくらしを愉しもう！

3. 【地域】農空間をみんなで活かそう！

プランの内容と10年後の姿・5年後の目標

の囲み内は5年後の目標

【しごと】農業でかっこよく働こう！

－「重要な産業」としての大阪農業の振興－

<10年後の姿>

農業経営体の販売額の増加 40億円 (200→240億円)

(1)ビジネスマインドを持つ農業者の育成

経営向上意欲の高い農業者を対象とした集中的な取組み、農業者の経営能力強化支援（大阪アグリアカデミア、戦略型人材マッチングなど）、農業経営の法人化の支援など

経営改善意欲の高い農業者の平均販売金額の3割増加

(2)農業を新たな「仕事」にできる機会の拡大

新規就農者の参入促進と定着の取組み（新規就農村など）、企業参入のトータルサポート、準農家制度の推進、ハートフルアグリ（障がい者雇用）の促進など

新規就農者80人・準農家90人・企業30事業者の参入

(3)農業ビジネスを加速させる技術開発・普及・農地利用の促進

革新的農業技術の開発・普及、担い手に農地の利用集積ができる仕組みづくり、農地中間管理事業を活用した農地貸借の促進など

革新的な新技術の現地立証 5技術以上
高収益型農業を実現するための農地の確保 80ha

(4)地産地消を支える農業者の育成と生産の振興

大阪版認定農業者の育成、高品質な農産物の安定供給、エコ農産物等の生産振興、きめ細やかな基盤整備や農業施設のファシリティマネジメントの推進など

主力野菜の供給量の増加 412t
エコ農産物の栽培面積の増加 43ha
水利施設の健全化 受益農地面積 1,150ha



(5)大阪産（もん）の全国ブランドとしての流通や海外販売

6次化サポートセンターを活用した商品開発、販路開拓にチャレンジする農業者支援、戦略品目の生産・マーケティング・販売が一体となったブランド展開（GAPの導入を含む）など

戦略品目（泉州水なす）の首都圏向け出荷量の増加 20t
6次産業化等に関する市町村戦略数 10件



【くらし】農でくらしを愉しもう！

－農を身近に感じ愉しめる機会の充実－

<10年後の姿>

府民が大阪産（もん）に直接ふれられる拠点数の増加 242件 (470→712件 直売所及び販売所)

(1)農を知る機会の充実

HPやFacebookでの効果的な情報発信やイベント開催など大阪産（もん）を知る機会の充実、出張教室や子どもたちへの農業体験・食育など農業・農空間の多面的機能を知り、学ぶ機会の充実など

大阪産（もん）Facebook発信 年間120回以上
HPビュー数 月平均1,000ビュー増加
農業・農空間について学ぶ学校等の数 100件



(2)大阪産（もん）を食べる機会の充実

地元産農産物の物語性や個性の紹介、レストランの併設やイベント開催などによる農産物直売所の魅力向上、量販店や駅ナカ、マルシェなど府民に身近な購入場所と機会の提供、大阪産（もん）を味わえる飲食店の増加など

農産物直売所利用者数の増加 42万人
大阪産（もん）ロゴマーク
使用許可件数（販売者数）の増加 107件



(3)農業・農空間での交流・体験機会の充実

交流活動や農業体験の拠点などJA等の直売所を活用した交流機会の充実、農家による市民農園、体験農園等の開設促進など農業・農空間を愉しみ、交流する農園等の充実

直売所での消費者と生産者の
交流事例の増加 5事例以上



【地域】農空間をみんなで活かそう！

－大阪農空間の多様な機能の発揮促進－

<10年後の姿>

地域の特色を活かした農空間づくりを全市町村で実施 (28→43市町村)

(1)農業・農空間での活動に参加しやすい仕組みづくり

府民が農業・農空間を愉しみ、交流するプログラムの発信や相談窓口の設置、農業ボランティアなど農を活かした活動機会の充実、企業のCSR活動のフィールド提供、活動団体同士の交流等、気軽に参加できるプラットフォームづくり

農空間づくりに参加する府民の増加 6,000人

(2)農を活かした地域づくりの推進

地域協働や府民協働による多面的機能の保全・活用、遊休農地対策とあわせた集落機能の維持・活性化、農空間保全地域制度の充実など、農を活かした地域協働活動の推進

協働活動に取り組む地区数の増加 10地区



(3)地域力による安全安心の確保

ため池防災・減災アクションプランに基づくハザードマップの作成や低水位管理、治水活用、耐震診断、防災農地登録制度、農業用水を災害時に活用する防災水利協定、地籍調査の推進

ため池のハザードマップの作成などの
ソフト対策の取組割合 30%増



<PDCAサイクルによるプランの進行管理>

- 大阪府農業振興地域整備審議会に有識者の部会を設置して、毎年度、各取組の「5年後の目標」に対する実績を評価し、必要に応じて改善・計画の見直しを行う。
- 評価にあたっては、「10年後の姿」に対する各施策の有効性も併せて検証する。
- 部会の内容は、大阪府農業振興地域整備審議会に報告する。

1. 農業でかつよく働こう！

【10年後の姿】 農業経営体の販売額の増加40億円(200億円 → 240億円、年2%増加)

【しごと】

施策項目	各個別取組及び評価	H29	H30	R1	R2	R3	5年後の目標	30年度目標	進捗状況	評価	担当グループ
(1)ビジネスマインドを持つ農業者の育成	①経営向上意欲の高い農業者を対象とした集中的な取組み ②農業者の経営能力強化支援 ③農業経営の法人化の推進 ④関係機関と連携した経営能力の強化 ⑤農業者のネットワーク活動の推進 ⑥優良事例の発信による経営能力向上の意識啓発	◎	○				①経営改善意欲の高い農業者の平均販売額の3割増加	①販売額目標設定者数50人	①43人	○	経営強化
(2)農業を新たな「仕事」にできる機会の拡大	①新規就農者の参入促進と定着に向けた取組み ②企業参入のトータルサポート ③準農家制度のさらなる推進 ④女性農業者の活躍推進 ⑤ハートフルアグリ促進 ⑥「仕事」としての大阪農業の魅力発信	◎	○				①新規就農者80人の参入 ②準農家90人の参入 ③企業30事業者の参入	①16人 ②18人 ③6事業者	①26人 ②22人 ③6事業者	①◎ ②◎ ③○	経営強化
(3)農業ビジネスを加速させる技術開発・普及・農地利用の促進	①革新的農業技術の開発 ②革新的農業技術の普及 ③農地の利用集積ができる仕組みづくり ④農地中間管理事業を活用した農地貸借の促進	○	○				①革新的な新技術の現地実証 5技術以上(1技術以上/年) ②高収益型農業を実現するための農地の確保 80ha	①1技術 ②15ha	①1技術 ②20.7ha	①○ ②◎	地産地消推進 計画指導 農空間整備 経営強化
(4)地産地消を支える農業者の育成と生産の振興	①大阪版認定農業者の育成による大阪産(もん)の供給量の拡大 ②大阪の食・文化を支える高品質な農産物の安定供給 ③人・農地プランの策定等を通じた地域振興 ④安全・安心で環境にやさしいエコ農産物等の生産振興 ⑤農産物の生産を支える農業施設のファシリティマネジメントの推進 ⑥きめ細やかな基盤整備の推進	◎	◎				①主力野菜の供給量の増加 412t(16,497t→16,909t) ②安全安心な農産物の栽培面積の増加 43ha(533→576ha) ③大阪産(もん)の供給を支える水利施設の健全化 受益農地面積 1,150ha	①16,736t ②566ha ③60ha	①15,263t ②529ha ③50ha	①△ ②△ ③○	地産地消推進 経営強化 病害虫防除 計画指導 農空間整備
(5)大阪産(もん)の全国ブランドとしての流通や海外販売	①6次産業化サポートセンターを活用した商品開発・経営改善 ②販路開拓にチャレンジする農業者支援 ③戦略品目を定め、生産とマーケティング、販売が一体となったブランド展開 ④産地から消費地までのきめ細かい流通システムの構築	◎	◎				①戦略品目(泉州水なす)の首都圏向け出荷量の増加 20t(173→193t) ②6次産業化等に関する市町村戦略数 10件(6→10件)	①181t ②1件	①300t(H29) ②5件	①◎ ②◎	地産地消推進 産業連携
総評							概ね計画どおりに進んでいる。今後も同様に推進を図っていく				

2. 農でくらしを愉しもう！

【10年後の姿】 府民が大阪産(もん)に直接ふれられる拠点数の増加242件 470件 ⇒ 712件

【くらし】

施策項目	各個別取組及び評価	H29	H30	R1	R2	R3	5年後の目標及び進捗状況	30年度目標	進捗状況	評価	担当グループ
(1)農を知る機会の充実	①大阪産(もん)を知る機会の充実 ②農業・農空間の多面的機能を知り、学ぶ機会の充実	○	○				①大阪産(もん)facebook 発信 年間120回以上 ②大阪産(もん)HPビュー数 1,000ビュー/月増 ③農業・農空間について学ぶ学校の数 100件	①120回 ②9,600 ③94件	①264回 ②6,918 ③104件	①◎ ②△ ③◎	計画指導 ブランド戦略推進
(2)大阪産(もん)を食べる機会の充実	①農産物直売所の魅力向上 ②府民に身近な購入場所と機会の提供 ③大阪産(もん)を味わえる飲食店の増加	▲	○				①農産物直売所利用者数の増加 42万人(466→508万人) ②大阪産(もん)ロゴマーク使用許可件数の増加 107件(263→370件)	①482万人 ②307件	①461万人 ②325件	①△ ②◎	地産地消推進 ブランド戦略推進
(3)農業・農空間での交流・体験機会の充実	①JA等の農産物直売所を通じた交流機会の充実 ②農業・農空間を愉しみ、交流する農園等の充実	○	○				①直売所での消費者と生産者との交流事例の増加 5事例以上(1事例以上/年)	①1地区	①1地区	○	地産地消推進 経営強化
総評							概ね計画どおり進んでいる。今後も同様に推進を図っていく。				

3. 農空間をみんなで活かそう！

【10年後の姿】 地域の特徴を活かした農空間づくりの実施 28市町村 ⇒ 43市町村

【地域】

施策項目	各個別取組及び評価	H29	H30	R1	R2	R3	5年後の目標及び進捗状況	30年度目標	進捗状況	評価	担当グループ
(1)農業・農空間での活動に参加しやすい仕組みづくり	①農空間づくりに気軽に参加できるプラットフォームづくり	○	◎				①農空間づくりに参加する府民の増加 6,000人(42,000→48,000人)	①44,000人	①49,000人	◎	計画指導
(2)農を活かした地域づくりの推進	①農を活かした地域協働活動の推進	◎	◎				①協働活動に取り組む地区数の増加 10地区(74→84地区)	①78地区	①82地区	◎	計画指導
(3)地域力による安全安心の確保	①地域力による安全安心の確保	◎	◎				①ため池のハザードマップ作成などのソフト対策 取組割合 30%増(40→70%)	①443地区(53%)	①488地区(57%)	◎	農空間整備
総評							計画以上に進んでいる。引き続き目標達成に向け、継続的に取り組んでいく。				

■ KPIの見直しについて (1)

項目	主な意見
【しごと】 地産地消を支える農業者の育成と生産の振興 ■主力野菜の供給量の増加 412 t (16,497 t → 16,909 t 年0.5%増) ※主力野菜：野菜指定産地・特定産地・こまわり産地の野菜	<ul style="list-style-type: none"> ・重量(t)ベースだけを目標にするのはしんどくなる。 ・直売所の売上げも加味するなど目標の設定のあり方を検討した方がいい。

○現行のKPI指標の分析

	H27	H29	差
主力野菜の供給量の増加	16,497 t	15,263 t	▲1,234 t
内キャベツ	6,883 t	5,741 t	▲1,142 t

- ・野菜の供給量については、天候不順等による特定の重量野菜の出荷量の変動に全体の出荷量の増減が大きく影響されること
 - ・JA出荷の取り扱い金額及び大型直売所*の販売額が把握できること
- ※ 年間売上額5,000万円以上の直売所を大型直売所と設定



○新たなKPI指標を設定

- ・5年後の目標：農協出荷額及び大型直売所の府内産農産物販売額の合計額の増加 2.3億円
 (92.7億円 年0.5%の増 ⇒ 5年後の目標 95.0億円)
- ※ 92.7億円＝H26～H28の3カ年平均値

■ KPI の見直しについて (2)

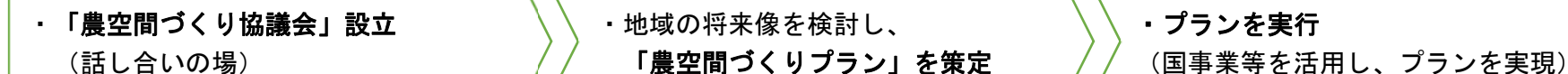
項目	主な意見
【地域】 農を活かした地域づくりの推進 ■協働活動に取り組む地区数の増加 10地区	・大阪府都市農業の推進及び農空間の保全と活用に関する条例の改訂に伴い、5年後の目標など進捗管理を変更しなくてもいいのか。

○新たなKPI指標を設定

- ・5年後の目標：農空間づくり協議会の設立数 32地区＝8地区/年×4年
 ※保全活用される農地面積 プランの実行 120ha/年（4年目以降）＝150ha×0.8（ロス2割）

○農空間保全地域制度の取組内容

- ・地域単位で将来像を検討し、その結果をプランにとりまとめ、その取り組みを実現していくもの。



- ・対象地域：営農の継続性に不安のある地域

- ①当該地域の農業者の高齢者（65歳以上）の割合が、府内平均を上回る地域
- ②当該地域の農業者に対する後継者を有する割合が府内平均を下回る地域

	1年目 (2017)	2年目 (2018)	3年目 (2019)	4年目 (2020)	5年目 (2021)
1クール目		設立8地区	1地区 (18.8ha)	4地区 (75.2ha)	3地区 (56.4ha)
2クール目			設立8地区	1地区 (18.8ha)	4地区 (75.2ha)
3クール目				設立8地区	1地区 (18.8ha)
4クール目					設立8地区
計			1地区 (18.8ha)	5地区 (94.0ha)	8地区 (150.4ha)

●おおさか農政アクションプランのKPIの見直しについて

改正案	現行	頁
<p>3. 農空間をみんなで活かそう！ (略)</p> <p>○農空間保全地域制度 (H30.4 改正) により、集落など地域単位での話し合いをすすめることにより、地域農業の目指すべき将来像やその実現方策を取りまとめた「農空間づくりプラン」を策定し、計画的な農地利用を進めていきます。</p>	<p>3. 農空間をみんなで活かそう！ (略)</p> <p>(新設)</p>	P25
<p>1. 農業でかっこよく働こう！ (略)</p> <p>(4) 地産地消を支える農業者の育成と生産の振興 (略)</p> <div data-bbox="91 587 1095 730" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><5年後の目標> JA 出荷額及び大型直売所の府内産農産物の販売額の合計額の増加 2.3 億円 (92.7 → 95.0 億円 年 0.5%増)</p> </div>	<p>1. 農業でかっこよく働こう！ (略)</p> <p>(4) 地産地消を支える農業者の育成と生産の振興 (略)</p> <div data-bbox="1122 587 2036 730" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><5年後の目標> 主力野菜の供給量の増加 412 t (16,497→16,909t 年 0.5%増) ※主力野菜：野菜指定産地・特定産地・こまわり産地の野菜</p> </div>	P30
<p>3. 農空間をみんなで活かそう！ (2) 農を活かした地域づくりの推進 (略)</p> <p>【取組内容】</p> <p>① 農空間保全地域制度 (農空間づくりプラン) の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地の利用を促進するため農家、地域住民等で構成する「農空間づくり協議会」の設立を促進 ・協議会で話し合い、将来の農地利用や担い手確保、地域活性化策をまとめた「農空間づくりプラン」の策定を支援 ・農地貸借や基盤整備、地域協働活動等、地域特性に応じたプラン実現のための取組を支援 <p>② 農を活かした地域協働活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協働や府民協働による農空間の多面的機能の保全・活用 (多面的機能支払、棚田ふるさと保全基金等) ・府民協働活動を通じた農空間の多面的機能の理解促進 <div data-bbox="91 1353 1095 1497" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><5年後の目標> 農空間づくり協議会の設立 32 地区 ※農空間づくりプランに基づき保全活用される農地面積 120ha / 年</p> </div>	<p>3. 農空間をみんなで活かそう！ (2) 農を活かした地域づくりの推進 (略)</p> <p>【取組内容】</p> <p>① 農を活かした地域協働活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民 (販売農家、自給的農家、非農家) による農空間づくりプランの検討と具体化の推進 ・地域協働や府民協働による農空間の多面的機能の保全・活用 ・遊休農地対策とあわせた集落機能の維持・活性化 ・府民協働活動を通じた農空間の多面的機能の理解促進 ・農空間保全地域制度の充実 <div data-bbox="1122 1353 2036 1497" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><5年後の目標> 協働活動に取り組む地区数の増加 10 地区 (74 → 84 地区)</p> </div>	P34